

南那珂の普及活動 (普及活動月報)

令和8年5月
南那珂農林振興局
(南那珂農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1 串間市サツマイモ基腐病対策連絡会議実務担当者会が開催

29日に、串間市役所において、関係機関・団体参集のもと、標記会議が開催されました。

串間市ではかんしょの栽培面積・農業者ともに減少が続いていますが、かんしょ生産を持続していくための所得確保に向けた対策を関係機関一体となって取り組んでいくことが再確認されました。普及センターとしても、もう一段階上の防除対策を提案しながら、産地再編に向けた取組を加速させていきます。

会では、JA及びくしまアオイファームから直近の販売及び生育状況について情報提供があった他、市からは令和7年度の事業実績及び令和8年度の取組計画について説明がありました。

また、普及センターからは、令和7年度のサツマイモ基腐病抵抗性品種比較などの試験結果及び令和8年度の試験計画、令和8年度の定点調査について説明しました。

2 超早掘トンネルかんしょの品評会が開催

25日、串間市大東地区管内のかんしょ生産者を対象に、超早掘かんしょの収量調査並びに品評会が開催されました。

昨年と比較して生育期である4月の日照時間が減少するなどの理由で、生育が遅れましたが、収量調査の結果は、昨年と同等程度となっています。

普及センターからは品評会の中で講評を行うとともに、梅雨に向けて、基腐病対策として初期防除の徹底をお願いしました。

また、令和8年産の超早掘かんしょの初受入れは6月8日の予定となっています。



講評を聞く生産者

3 JA みやざき串間市大東地区本部かんしょ部会総会が開催

25日に、中村荘で「JA みやざき串間市大東地区本部第57回かんしょ総会」が開催されました。

会では、JAの担当者から説明があった令和7年度事業実績及び令和8年度事業計画等のすべての議案が承認されました。

また、来賓として県内外の市場関係者などが参加する中、普通掘の反収増加に向けた質問等、積極的な質疑応答が行われました。



熱心に話を聞く生産者

4 JA はまゆう地区本部食用甘藷部会総会が開催

28日に、中村荘で「令和7年度宮崎県農業協同組合はまゆう地区本部食用甘藷部会総会」が開催されました。

会では、JAの担当者から、令和7年度事業実績及び令和8年度事業計画等の説明があり、すべての議案が承認されました。

また、普及センターからは、台風の接近に向けて、基腐病等の啓発資料を配布し、防除の徹底を呼びかけました。



基腐病対策を聞く生産者

II 主な普及指導活動等の取組

1 地域プランに基づく普及活動

No. 1 スマート農業を実装する多様な水田経営モデルの育成

1) 人工衛星画像を活用した可変施肥田植えの実施

1日に、串間市において、営農管理システム「ザルビオフィールドマネージャー」を活用した可変施肥田植えを行いました。

これは、人工衛星画像により、ほ場の地力に応じた可変施肥マップを作成し、作成した可変施肥データを田植機と連動させることにより田植え作業を行うもので、田植え作業はスムーズに行うことができました。

今後も、引き続き生育状況等の確認を行いながら、支援を行っていきます。



上：可変施肥田植え

左下：ほ場の施肥マップ

右下：施肥コントローラー

No. 2 技術革新により高収益生産に挑む儲かる野菜産地の実現

1) きゅうり及びピーマンほ場の土壌硬度調査の実施

28、29日に、管内の学修グループ会員等のきゅうり及びピーマンほ場にて、デジタル貫入式土壌硬度計を用いた土壌調査を行いました。

本機は深層（90cm）までの土壌硬度を即座に確認できるため、排水性の悪い箇所の特特定とその要因（硬盤層の有無等）を分析し、次作に向けた耕耘方法や土壌改良について助言を行いました。

生産者から土壌物理性の改善について様々な質問が出され、関心の高さがうかがえました。



土壌硬度計を畝に貫入する様子
右横：使用した硬度計

2) サツマイモ基腐病対策実証ほの設置及び調査

13日、22日、26日に、管内ほ場において、市、JA、畑作園芸支場の職員が参集のもと、宮崎紅（高系14号）の新系統能力試験及びサツマイモ基腐病に対する抵抗性品種比較試験などの定植を行いました。

今後は、定期的に栽培状況の確認を行っていきます。また、収量調査や形状・肉色の評価を実施することとしています。



実証ほ定植作業の様子

3) かんしょほ場での病害発生状況調査の実施

21日に、関係機関（串間市、JA、振興局、普及センター）で第1回目のかんしょほ場の定点調査（ほ場数27箇所）を行いました。

本調査は、毎年、5月～10月にかけて管内各ほ場を巡回し、サツマイモ基腐病の発生状況の把握を行っています。

今年度は、サツマイモ基腐病に加え、茎根腐細菌病の発生状況についても把握を行っています。

今後も関係機関と協力して、生産者の意識啓発を行い、病害対策の徹底を図っていきます。



病害発生状況を確認

No. 3 産地構造の改革による足腰の強い肉用牛産地の実現

1) 飼料用稲における病害虫防除剤展示ほを設置

串間市のほ場にて、19日にニカメイチュウ、22日にいもち病の防除剤（箱施薬）の展示ほを設置しました。

7月上旬頃に対象病害虫の発生程度を調査し、薬剤の効果について検討します。



薬剤散布の様子

2) 採草地及び放牧地における永年牧草定着状況の確認を実施

28日に、令和7年に永年牧草（バヒアグラス）を播種した採草地1カ所、放牧地2カ所（串間市）について、牧草の定着状況の確認を行いました。

ほ場によって定着割合に差はあったものの、いずれのほ場においても新芽の伸長が確認できました。

引き続き生育状況の確認を行い、永年牧草定着に向けて支援します。



採草地の様子

3) 飼料用稲（乾田直播）の生育確認を実施

串間市のほ場にて、乾田直播した飼料用稲の生育状況確認を随時行いました。出芽及び生育状況は良好です。

引き続き生育状況の確認を行い、適期の除草剤散布等の指導を行います。



出芽状況調査の様子

No. 4 県内一のかんきつ、スイートピー産地を未来につなげる仕組みづくり

1) 農業経営基盤の承継希望情報の収集に取り組みました。

8日から、18日まで、NOSAI 宮崎の園芸座談会（施設園芸共済や収入保険の受付）の開催に合わせ、普及センターから農業経営の経営承継に関する啓発と、経営資源（ハウスや樹園地）の承継希望情報の収集について、呼びかけをさせていただきました。人口減少の影響が課題となる中ですが、普及センターでは、今後とも持続可能な産地を目指して、後継者や新規参入者への経営承継を支援していきます。

承継推進の呼びかけチラシ

早めに経営承継について考えてみませんか？
相続と経営の承継は別物です!!

体が動かず働けなくなってしまうだけでなく、5～10年をかけて計画的に事業承継を進めていくことが重要です。
後継者も早めに農業経営を自分で体感することで早期に「経営者」として自覚し、作り上げてきた基盤をスムーズに引き継いでいくことができます。

★事業承継には、農地等や減価償却資産に係る税制特例等のメリットがあります。

- ・暦年課税
- ・相続時精算課税制度
- ・農地の贈与税の納税猶予制度
- ・個人版事業承継税制

○経営承継の準備（家族内承継の場合）

- ①後継者と話し合いをし、お互いの意思を確認する。
- ②承継の時期を決め、後継者の育成を行う。
- ③承継する資産（土地・機械・人）を明確にする。

※経営承継の注意（家族内承継の場合）
承継を促すため、家族間の貸付費等の支払い、口座の切り替え、ローン資金の取扱いなどを明確にするために、金融機関窓口等へ早めに相談しましょう。

興味のある方は気軽にご相談ください。
承継に関する専門家を交えて一緒に考えてみましょう。
問い合わせ先—宮崎県南河川農林振興局（南河川農業改良普及センター）
地域振興担当 0987-21-9550

2) 持続可能なカンキツ産地を目指した呼びかけの実施

12日に、開催されたJAみやざきはまゆう地区本部果樹部会露地カンキツ専門部総会で、持続可能なかんきつ産地を目指して、将来、後継者に経営の引継ぐための早めの準備が重要であることや、後継者不在の経営資源を新規就農者等へ引き継いでいくための体制づくりに取りかかろうとしていることなどについて情報提供を行いました。



露地カンキツ専門部総会での呼びかけ

2 地域課題一覧に関する普及活動

1) 農業女子「きらり☆くしま」の総会が開催

29日に、多くの会員が出席され総会が開催されました。新会長の「会員のアイデアと協力をいただいて活動を盛り上げたい。」との活動方針の表明を受けて、女性農業者の研鑽や交流を深めるため、食育や地産地消をはじめ、同市特産品のPR等の活動計画について協議されました。

普及センターからは、センター主催の研修や農業経営者サポート事業の紹介、熱中症対策のポイント等について情報提供しました。



新役員のあいさつ

2) JA茶部会二・三番茶出荷協議会の開催

20日に、JAみやざきはまゆう地区本部にて、二・三番茶出荷協議会が開催されました。会議では、茶流通情勢報告のほか、一番茶取扱実績及び二・三番茶取扱計画について説明がありました。

普及センターからは生育状況報告と今後の茶園管理について説明するとともに、農作業安全についての注意喚起を行いました。

3) にがうり（雨除け栽培）展示ほ調査の実施

8日、26日に、管内に設置している展示ほの生育調査を実施しました。今回は宮崎県総合農業試験場育種の新系統2種及び慣行2品種（計4種）を供試しています。

26日の調査では、収穫期の生育状況を確認するため、農業試験場の担当も参加して調査を行いました。今回の調査結果をもとに、適合品種や適切な栽培管理技術の確立に向けた検討を進めていきます。



試験場・JA指導員・普及員による調査

4) ホオズキの展示ほ調査の実施

近年ホオズキでは、実の老化による等級低下が問題となっており、定植からの高温が続くことが原因と言われています。そこで、昨年度より引き続き展示ほを設け、定植時期の違いによる影響を調査しています。

11日、25日に定植後の生育状況調査を実施しました。現段階では慣行区が早く定植した分、生育も早いですが、今後も収穫時期まで定期的に調査し、実の老化の影響を検討し安定した収量確保を進めていきます。



定植時期の違うホオズキ
(手前：慣行区、奥：試験区)

3 その他の普及活動

1) スイートコーンの「オルトラン水和剤」効果確認調査を実施

14日に、日南市南郷町の生産者ほ場で、「オルトラン水和剤」の防除効果の調査を実施しました。「オルトラン水和剤」は、アブラムシやアワノメイガに有効とされる薬剤で、残効性に優れることから、長期の防除効果が期待されます。4月16日に本剤を散布し、今月収穫直前の効果確認を行ったところです。

今後、慣行薬剤との比較検討を行い、防除暦への導入について関係機関と検討していきます。

2) スイートコーン施肥体系に係る展示ほ調査を実施

経費削減が求められる中、スイートコーンでは基肥一発型の低コストBB肥料「エコループ」の展示ほ調査をJAの営農指導員と実施しました。串間市の生産者ほ場で1月20日に施用したもので、今月1日、14日に生育調査、21日には収量調査も行いました。

今後、生育状況に加え収量調査の結果をJA専門部会にて情報共有し、栽培体系への導入を関係者間で協議していく予定です。

3) 侵入警戒有害動植物の侵入調査を実施

本県への侵入警戒害虫であるミカンコミバエ種群（管内8箇所）のトラップ調査を実施し、いずれも誘殺は確認されませんでした。

今後も、南那珂地域への侵入・まん延を防止するため、定期的な調査を実施していきます。